

入選

「第二の母」

千葉県 市原市立白金小学校 五年 辻井 理紗

私には第二の母がいます。それはお母さんの姉で本当ならば、おばさんと言うのだから、私がお産まれた時まだ二十一才だったのでネネとよんでいます。ネネはすごく明るい人でお笑い芸人の友近に似ています。私の顔に落書きをしたり、パソコンで色々なテーマパークのページを開いて、その画面を私に見せながら体を動かして乗り物に乗っている気分をしたり、すごくくだらないのになんだかとても楽しくなります。そんなネネの周りにはいつもにぎやかな笑い声でいっぱいです。

私のお母さんは何も出さない人です。料理もさいほうも下手です。だから私は何でもネネにたのみます。体そう服の名ぶだを付けてもらったり、ぼうしのゴムをなおしてもらったり、ご飯を作ってもらったり、おやつを作ってもらったりします。おやつはたまに失敗してまずい時もあるけど、食べられないほどではないので「まあ、いっか。」とあきらめます。なぜならばお母さんが作るよりは全然上手だからです。私はネネと一緒に住んでいなければ毎日すごくまずい料理を食べるしかないからです。お母さんは私に

「ネネがいなかったら二人共やせちゃうね。」と言います。私もそう思います。いつも出かける時はネネが運転して連れて行ってくれます。

「りさが行きたいって言うなら、どこにでも連れて行ってあげるよ。」と言います。だから私は行きたい場所をネネに言います。すると、私かわすれたころにとつ然、朝起こされて行き先も教えてくれないまま車に乗せられます。

「どこに行くの?」と聞くと

「近所のコンビニはあきたから、ちょっと遠くのコンビニまでたばこを買いに行くから付き合っ」と言われます。私が本気にしていると着いた所は私が行きたいと言った場所だったり、

「 に行くよ。」と言われて車に乗ったのにそこではなく私の行きたい場所だったりします。サブライズドライブです。私はこのサブライズドライブが大好きです。

お母さんと私はよく

「ネネが結こんしたらこまるね。」と話します。とつてもやさしくしておもしろいネネだから幸せになつてもらいたいけど結こんしてこの家からいなくなつてしまつと私はとつてもこまるしさみしいです。ふくざつな気分です。でも、そんなネネは三十二才になつた今でもまだかれ氏もいないので結こんする気配はありません。しばらくは私の第二の母でいてくれるみたいです。私が大きくなつたらおん返しをしたいと思います。今までありがとう。これからもヨロシクネッ♡